

全市民「倉(クラ)イマー」計画

～倉吉市をスポーツクライミングの聖地に～



倉吉商工会議所青年部

大希帆走委員会



◆ご挨拶

倉吉商工会議所青年部 令和4年度会長 田栗 信昭

◆提言内容

【全市民「倉(クラ)イマー」計画～倉吉市をスポーツライミングの聖地に～】

- 1 提言の背景
- 2 聖地化に向けた現状
- 3 現状から見た課題のまとめ

◆提言内容詳細

○スポーツライミングについてもっと知りたい！！

～【ボルダリング】を活用しよう～

○スポーツライミングをもっと身近なものにしたい！！

～指導者を【スピード】育成しよう～

○スポーツライミングの大会を積極誘致したい！！

～他県に比べて【リード】しよう～

◆目標・GOAL

◆取り組み紹介

全市民「倉(クラ)イマー」計画に向けた倉吉Y E Gの取り組み

◆あしがき

倉吉商工会議所青年部 令和4年度副会長 廣戸 智行

◆令和4年度大希帆走委員会名簿

委員長	野口 直嵩	担当副会長	廣戸 智行
副委員長	笠田 直樹	監事	高眞 仁司
	伊東 英知郎		
委員	岸 良弥	清水 将太	田中 栄介
	田中 一義	松尾 一宏	山内 大輝

ご 挨拶

我々、倉吉商工会議所青年部は、本年度、「Blow a New Wind ～今を知り、明日を創る～」のスローガンのもと、地域を支える青年経済人として自企業の発展はもちろんのこと、コロナ禍からの福興の一助となり、郷土をより豊かにするために日々活動を行っております。

鳥取県は、豊かな自然に恵まれ、登山、カヌー、キャンプ、サイクリングやウォーキングなど、アウトドアレジャーを楽しめる環境が豊富に存在しています。また、新鮮な海の幸や緑豊かな環境の中で農産物なども豊富に採れ、食の資源にも恵まれています。しかしながら、全国には同様の特色を持った地域が無数に存在し、それらの観光地との熾烈な観光客誘致競争の中にあり、地域経済は極めて厳しい状況にあります。この状況を打開するために、我々は唯一無二の地域資源を新たに発掘・育成し、独創的な競争力を持つことが不可欠であると考えています。突き抜けた取り組みを苦手とする県民性であるためか、既に確立されたビジネスモデルを参考にしながら新たな地域資源を育てることは難しいように感じられます。

今、倉吉市にはスポーツクライミングという計り知れないポテンシャルを持つ地域資源の原石が存在しています。我々青年部は、このスポーツクライミングの魅力にいち早く着目し、クライミングの聖地化への取り組みをスタートしました。2017年に当時 JOC 日本代表コーチの安井博志氏を講師に招き講師例会を行ったことを皮切りに、大会へのボランティア派遣、オリンピックフランス代表への歓迎おもてなし、子供向けボルダリング体験会の開催など、様々な活動を行って参りました。活動を通じて、競技としての面白さや観光資源としての有用性など、多くの可能性を感じる事ができましたが、一方で後述のアンケート結果にもあるように、市民への働きかけが薄く、このスポーツを観光資源化することに対して訴求していかなければならない点が多くあると感じています。

活動に取り組んできた実感として、スポーツクライミングの聖地化を成し遂げるためには、行政と民間がこれまで以上に手を取り合って連携・協力することが必要であると強く感じています。本提言書が、今後の産官連携の取り組み促進のきっかけとなる、地域へ吹く新しい風となれば幸いです。

最後に、この提言書を作成するにあたりご支援ご協力いただいた皆様へ、心より厚く御礼を申し上げます。



倉吉商工会議所青年部 令和4年度会長 田栗 信昭

◆提言内容

【全市民「倉(クラ)イマー」計画～倉吉市をスポーツクライミングの聖地に～】

1. 提言の背景

スポーツクライミングは東京2020オリンピックで追加競技に選出され五輪デビューを果たし、近年では日本国内だけでなくヨーロッパ、アジアを中心として世界各国で盛り上がりを見せている注目スポーツのひとつである。倉吉市は、以前よりスポーツクライミング振興の環境整備を進めており、ボルダリングユース日本選手権が毎年ここ倉吉の地で開催されていることを始め、16年ぶりの国内開催となった2018年IFSC-ACCクライミングアジア選手権の開催地に選出されるなど、スポーツクライミングというスポーツにおいて日本を代表する地域となっている。令和4年には、「スポーツクライミング聖地化推進協議会」を設立し、スポーツクライミングを通して地域の盛り up を加速させる取組みも始めた。しかし、このような取組みやスポーツクライミングという競技自体について、市民はどの程度知っているのだろうか。「倉吉市をスポーツクライミングの聖地とする」という言葉が形骸化することの無いように、全市民がスポーツクライミングについて“知っている”、“競技を行なったことがある”、“観たことがある”状況を作り上げることが必要ではないだろうか。倉吉商工会議所青年部は、スポーツクライミングを通じて市民全体で地域を盛り up し、名実ともに【倉吉市＝スポーツクライミングの聖地】という事実を創り上げるため、この度提言書を作成する事とした。

2. 聖地化に向けた現状

スポーツクライミングという競技は「アーバンスポーツ＝都市型スポーツ」として若い世代の多い都市部を中心に発達してきた。まだまだメジャー競技とは言えないものの、東京オリンピックにて野中選手が銀メダル、野口選手が銅メダルを獲得するなどの日本勢の活躍もあり、国内の認知度は徐々に高まってきており、2024年開催予定のパリオリンピックでも正式種目に採用されることが決まっている。ここでも日本人選手がメダルを獲得する可能性も高く、今後も注目を集めることが想定される競技である。

ここ数年は、都会を中心にクライミングジムが増加し、若年層をコア層として競技人口の広がりを見せている。一方、倉吉市においては私設のクライミングジムは1軒しかなく、それに加え指導者も不足しているため、この競技を市民が気軽に体験をするにはハードルが高く、市民のごく少数が関わっているのみという状況である。

スポーツクライミングは、【ボルダリング】【スピード】【リード】の3種目の競技の総称であるが、倉吉市はこの全ての競技設備が揃っている数少ない地域の一つである。しかし、東京オリンピックを契機とした国内での需要の高まりを受け、経済効果を見込んだ複数の自治体が予算をかけて環境整備を進め、スポーツクライミングの大会誘致に向けて積極的に動き始めている。ここ数年は、前段で述べたようにユース大会などを始め、いくつかの全国大会・地方大会が倉吉で開催されているものの、財政的に規模の大きな自治体の参入が続いている中、これらの大会の開催地として今後も選ばれ続けていくかどうかは不透明であると言わざるを得ない。スポーツクライミングの日本代表ヘッドコーチは長年にわたり安井博志氏（三朝町

出身。以下、安井氏)が務められているが、この安井氏と倉吉商工会議所青年部が令和4年11月に行った意見交換会の中で、「倉吉市で大会を開催できる最大の要因はボランティアスタッフの質の高さにある」という一節があった。開催地選定にあたってまず考慮される点は、①施設利用料の安さ、②競技設備設営料の安さ、③ボランティアスタッフの質の高さという3点。①②においては現時点で倉吉市に優位性があっても、どこかで横並びもしくは逆転されることが容易に想像できる。しかし、③においては、継続開催しているからこそ経験を積んだボランティアスタッフが多くいる事に加え、倉吉の“地方だから”こそまだ根付いているおもてなしの精神が、予算で圧倒する他地域に比べ、大会誘致の優位性を維持できているのではないかと推察される現状である。



都会では特集が組まれるほど私設クライミングジムが増加している



R4.11/2 安井氏と倉吉商工会議所青年部とのスポーツクライミングに関する意見交換会
複数の自治体が誘致に動いている↓(写真は一部の自治体)



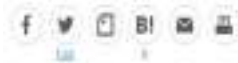
【神奈川県松田町】



【愛媛県西条市】

クライミングの街へ、盛岡でW杯初開催 鍵は3つだけの貴重な競技場

岩手県 2022年10月22日 11時10分



岩手県内では初開催となる「スポーツクライミングのワールドカップ (W杯)」が20日から22日まで盛岡市で開かれている。会場は、青森運動公園。実は、同公園は日本でも有数の規模のクライミング施設を備えている。実はW杯をきっかけに、「クライミングの街」の愛感をめざす。

競技場があったりドーム型の施設も。石巻はスピード種目で、2022年10月21日、岩手県青森県公園

準決勝があった21日朝、青森運動公園に

【岩手県盛岡市】

スケートボード、サーフィン、スポーツクライミング及びブレیکنが愛知・名古屋2026大会実施競技に決定!



【愛知県名古屋市】



Toyama University of Education (Toyama University of Education) is a leading university in Toyama Prefecture. It has a long history of education and research. The climbing wall is a new facility that will be used for various sports events.

【富山県南砺市】



好日山荘、国際基準を満たす日本初の屋内クライミングジムを京都に開設

【京都府亀岡市】

愛媛県西条市 石鎚クライミングパーク SAIJO 視察（令和5年2月）



←のどかな田園風景の中に圧倒的な存在感
巨大なランドマークになっている

近くのハイウェイオアシスにはモンベルショップや
温泉施設、キャンプ場などが整備されている



3つの競技ウォールがそろい踏み（右手シャッターの中に常設ボルダリング壁がある↓）

- リード・スピード壁には屋根が大きくあり、雨天での競技が可能
- 常設ボルダリング壁も屋内にあるが、前面がシャッターで観客が見やすい作り
- 真ん中が大きな芝生地帯。観客が自由に過ごせる環境
- 周りが田園のため、音響もかなり自由
- 運動公園のため、野球場・体育館・テニスコートなど他競技との相乗効果大
- 各大会成績優秀者のサイン掲示
（選手たちの自慢になる。また来たい・家族を連れてきたいという動機付けにも）
- とてもリーズナブルな料金設定

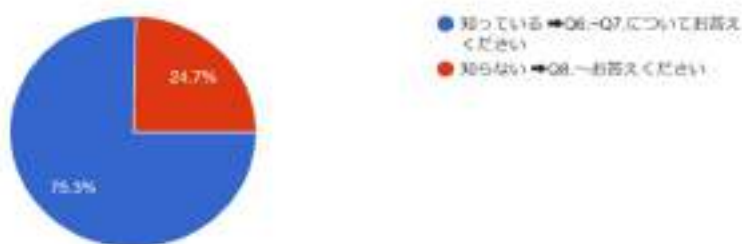


区分・時間	個人使用		占有使用	
	市内	市外	時間	市内
一般	9時～17時 180円 17時～22時 220円	9時～17時 220円 17時～22時 340円	9時～13時	4,500円
高校生以下	70円 120円	120円 180円	13時～17時 17時～22時	4,500円 6,000円

3. 現状から見た課題のまとめ

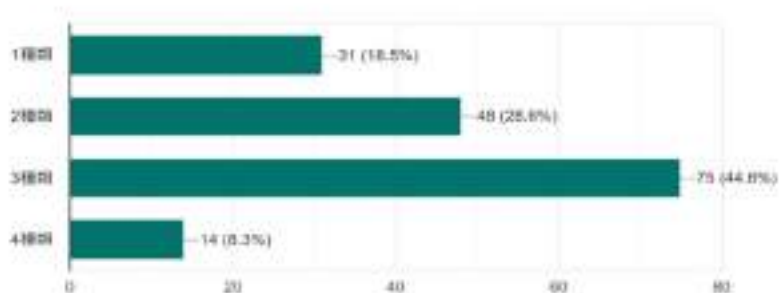
Q5. スポーツクライミングという競技を知っていますか？

223 件の回答



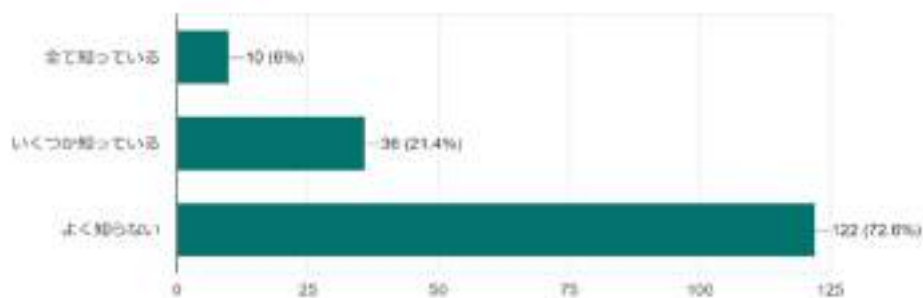
Q6. スポーツクライミングの中には競技が何種類あるか知っていますか？

168 件の回答



Q7. それぞれのルールを知っていますか？

168 件の回答

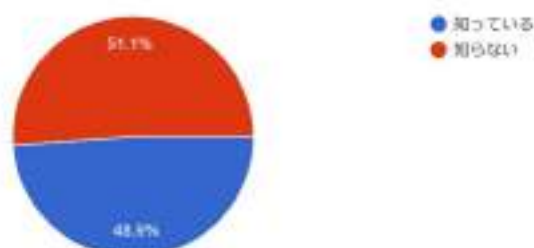


◎4人に1人が競技を知らないという現実

◎競技は知っているがルールや詳細を知らない人が全体の7割強

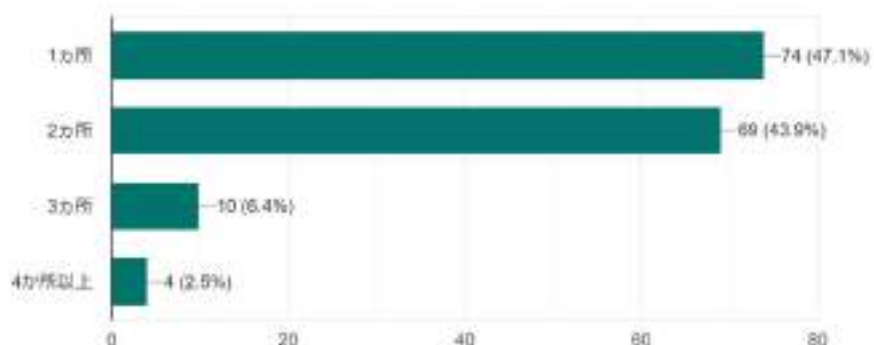
Q12. 倉古市がスポーツクライミングの聖地化活動に取り組んでいることを知っていますか？

223 件の回答



Q9.

体験できる施設は市内に何か所あるか知っている(公園の遊具や幼稚園・こども園内の施設は除く)
157件の回答



- ◎倉吉に体験できる施設があるのは知っているが、聖地化の活動については知らない
- ◎きっかけがあれば競技をやってみたい人は多い
- ◎大会を経済からの視点で捉える、継続開催の意義
- ◎ボランティアの質向上(倉吉開催付加価値向上)が聖地化への必須条件

以上6項目をまとめ、3つの提言を行いたい

◆3つの提言◆

- ① スポーツライミングについてもっと知りたい！！
～【ボルダリング】を活用しよう～
- ② スポーツライミングをもっと身近なものにしたい！！
～指導者を【スピード】育成しよう～
- ③ スポーツライミングの大会を積極誘致したい！！
～他県に比べて【リード】しよう～

◆提言内容詳細

①スポーツクライミングについてもっと知りたい！！

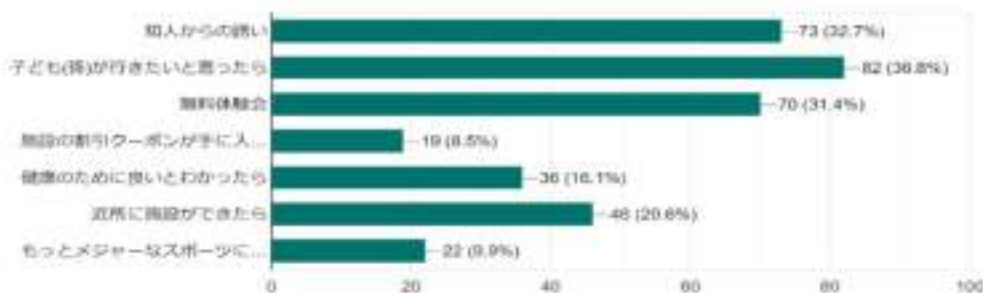
～【ボルダリング】を活用しよう～

倉吉商工会議所青年部が独自に調査したスポーツクライミング意識調査アンケートでは、スポーツクライミングという競技は知っているが、ルールや内容まで詳しく知らない人が7割強を占め、メジャー競技に比べ認知度という点において劣っている状況がみられた。しかしながら、ルールがわからない中でも競技をやってみたいという意見が半数を数え、また、興味深い点として、子ども(孫)がやるならやってみたい・知人からの誘いがあればやってみたいという意見が非常に多かったことが挙げられる。口コミからの導入が競技へのアプローチとして有効な方法であると推察される。

Q10. スポーツクライミングをやってみたいと思いますか？



Q11. どういうきっかけがあればスポーツクライミングをやってみたいですか？ (複数回答可)



スポーツクライミングは屋内でできるスポーツであり、【ボルダリング】に限って言えば、施設があれば一人で行うことができるスポーツである。また、他スポーツに比べ、対戦相手が必ずしも必要でないことや他者との距離を確保したまま行えることから、コロナ禍においても推進することのできるスポーツであると言える。また、競技の特徴としてコア志向～ファン志向の方まで参加することができ、且つ、対象年齢においても幼児から高齢者まで幅広い層が対象となるため、医療費増大が叫ばれる昨今、【倉吉＝スポーツクライミングの聖地】という認識を植え付けることにより、市民の健康維持や体力向上のために、このスポーツを推進していくことは十分なメリットが見込まれる。アンケート結果より、市民の認知度では聖地と呼ばれるには程遠い現状を踏まえ、スポーツクライミングへのタッチポイントを増やすことを考えなければならない。

☆口コミが最大のきっかけとなる。子どもたちに体験してもらおう！

スポーツを始めるには「目標」と「環境」が必要であり、何より「早いうちから経験しておくこと」が重要である。そのために、市内各所のこども園・保育園・幼稚園等にボルダリングを体感できる施設・設備を提供する必要がある。どのような「スポーツの聖地」にも、必ず「子どもの頃からやっていた」は付きものである。倉吉の子ども達の「将来の夢」の一つに「スポーツクライミングで金メダルを獲る」を与えてあげられる環境を整えるべきではないだろうか。



左：すでに簡易ボルダリング施設がある倉吉市内保育園

☆全国大会が開かれるタイミングを有効活用しよう！

ユース大会やアジア大会ではクライミングウォールが室内に設置された。大会終了後、翌日にはそれらが解体され、有効活用されていないのが現状である。大会翌日に施設を借り上げ、市内保育園児・小学生を対象に是非とも体験会を実施してほしい。ホンモノに触れる機会が都会に比べて多くない地方の子ども達のワクワクを喚起することが、競技への関心を高めていくことになるのではないだろうか。



倉吉で開催された 左：ボルダリングユース大会

右：アジア選手権

👉IFSC ワールドカップ国別ランキング(日本) : この実力者達を見られる環境は得難い機会

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2022
ボルダリング	4位	4位	4位	2位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位
リード	3位	5位	3位	1位	2位	4位	4位	3位	2位	1位	1位
スピード	-	-	-	15位	19位	15位	15位	21位	13位	14位	8位

☆出張クライミングウォール設置を市主催イベントで定例化しよう！

倉吉商工会議所青年部主催のイベントや各種お祭り、ワールドトレイルカンファレンス時に行ったクライミング無料体験会では、多くの親子連れが列をなし、興味があることは明白であった。市内にはこの体験クライミングウォールを設営する技術を蓄積している企業がある。この体験クライミングウォール設置を倉吉市主催のイベント等で定例化し、体験できる場を増やすという草の根運動が聖地化に向けた取り組みとして必須である。



倉吉商工会議所青年部主催のイベント等で設置された体験クライミングウォールには長蛇の列が



②スポーツクライミングをもっと身近なものにしたい！！

～指導者を【スピード】育成しよう～

そもそも近年になって競技人口が急拡大してきたスポーツのため、競技経験者が少ないことは仕方がないものの、指導者については競技経験者が主に務めており慢性的な指導者不足という現状がある。スポーツクライミング意識調査アンケートにもあるように、ルールを理解した大人の絶対数が少ない為、いつまで経っても地方には指導者が増えていく未来を描くことはできない。

従って、聖地化に向けて指導者を増やすことはもちろんだが、競技補助者とまで行かなくても、子ども達がクライミング施設を利用する際にサポートできる人間（資格）を多く生み出す仕組みが必要だと考える。リード・スピードに関する指導者については経験値が必要であるため、すぐに増加を目指すことは難しいかもしれないが、競技人口の裾野を広げていく中で徐々に広がっていくのではないだろうか。



☆補助者講習会の実施。倉吉独自基準を創り出そう！

山岳協会と連携し、基本的な競技ルールやレギュレーションについての定期的な講習会を設置して競技をサポートできる大人の絶対数を増やすことで指導者が増えていく未来に繋がりたい。また、倉吉市が主体となって指導者に向けた独自基準を制定し、その独自基準を満たした倉吉版有識者の増加に努めることで、地域の子どものクライミング指導者（サポーター）を増やしたい。

山岳協会認定指導者講習会	
講習会概要	
開催日時	2023年10月28日(土) 10:00～16:00
開催場所	倉吉市立体育館
対象者	18歳以上、小学生未満の児童は保護者同伴で参加可能
定員	30名
費用	講習費 10,000円
申込方法	山岳協会ホームページから申し込み
申込締切	2023年10月20日
お問い合わせ先	山岳協会 事務局 0292-22-1111

倉吉市独自基準	
講習会概要	
開催日時	2023年10月28日(土) 10:00～16:00
開催場所	倉吉市立体育館
対象者	18歳以上、小学生未満の児童は保護者同伴で参加可能
定員	30名
費用	講習費 10,000円
申込方法	倉吉市スポーツ課から申し込み
申込締切	2023年10月20日
お問い合わせ先	倉吉市スポーツ課 0854-22-1111

公認スポーツクライミング指導者養成カリキュラム [JSP0 日本スポーツ協会 \(japan-sports.or.jp\)](http://japan-sports.or.jp)

☆中学校の部活が廃止！？クラブチーム化への対応が急務！

2023 年度より中学校の部活が段階的に無くなっていくことが決まっている。背景には少子化や教師の部活に対する負担があるものと思われる。今後数年でそれが現実となっていけば、子ども達の放課後の受け皿は地域住民が自主的に運営するクラブチームが担うこととなるが、指導者がいなければ、そもそもその競技のクラブチームが設立されるはずもなく、作ったところで有意義で安全な活動を担保できない。それではスポーツライミングに触れる子ども達の数が増えることは無いだろう。少子化の波は地方から襲ってくる。少子化が進み団体活動が困難になってきている地方では、今後 1 人で行うことのできる競技を選択する子ども達も増えてくるのではないだろうか。早急にクラブチームを設立できる体制を整える必要がある。

【厚生労働省「働き方改革を踏まえた部活動改革について」より一部抜粋】

・地域部活動の運営主体は、退職教師、地域のスポーツ指導者、スポーツ推進委員、生徒の保護者等の参画や協力を得て、総合型地域スポーツクラブ、民間のスポーツクラブ、芸術文化団体等が担うことが考えられる。

・こうした地域団体において地域部活動の運営を担う人材や指導者を確保しつつ、当該団体の責任の下で、生徒の安全の確保や指導者への謝金の管理など、地域部活動の管理運営が行われることについて、生徒、保護者等の理解を得ることが望ましい。

休日の地域部活動については、教師ではなく地域人材が担うものであり、地方自治体は、教師に代わり生徒の指導や大会への引率を担う地域人材の確保に向けて、人材バンクを整備・活用し、関係団体と連携しながら、人材の育成からマッチングまでの民間人材の活用の仕組みを構築するなどの取組を行う。

・地域部活動の指導者は、部活動に参加する生徒の意向を踏まえ、指導方針や活動内容を決定する。その際、平日の学校部活動との関連性を考慮する必要がある。

・また、地域部活動の指導者が部活動の意義を理解した上で、生徒のスポーツ・文化への興味関心の向上や体力・技能の向上に資する指導を行うことができるよう、部活動ガイドラインを踏まえ、部活動指導員と同様の研修を行うことが望ましい。

③スポーツクライミングの大会を積極誘致したい！！

～他県に比べて【リード】しよう～

前述のとおり、スポーツクライミングの3種目の競技設備が揃っているのは全国に数カ所しかなく、大会誘致において他地域に比べ優位性があった。しかし、東京2020オリンピックを契機に複数の自治体が専用競技場を整備する動きを見せており、通常の流れであれば、予算規模の大きな自治体が大会開催地に選出されていく可能性は高いと思われる。

しかし、

- ① 全国的な大会を倉吉市民が直接観戦する機会は少なく、市民特に小学生や幼稚園児などにとって、このスポーツへのあこがれや興味を喚起する場として全国的な大会は貴重
- ② 特にユース大会は対象者が20歳以下であることから、競技者以外に保護者や同伴者が一緒に行動するため、必然的に食費や宿泊代、観光等での地域経済への波及効果が見込まれる

この2つの側面から大会誘致継続は絶対必要なのである。

☆スポーツクライミング専用施設を新設しよう！

倉吉市のスポーツクライミング施設は、3種目の競技が出来る施設とはいえ、ボルダリングに関していえば、競技用ウォールは常設ではなくその都度設営されている。リード・スピードに関して屋外常設のため、天候に左右されてしまうという問題がある。そして最大の問題は、リード・スピード壁の設置場所が、多くの観覧者を想定して設置されておらず、また普段市民の目に留まらない場所にあること。競技者へ今以上に多くの敬意を払う為、そして2034年に鳥取県での国体開催が決まっている中、鳥取県の代表スポーツとして胸を張れるよう専用施設の新設を要望したい。



左：その都度設営される競技用ウォール



右：屋外常設のスピード・リード壁



フランス ブリアンソンで開催された
リードワールドカップの様子

☆全市民サポーター体制を構築しよう！

予算規模の大きな自治体との大会誘致レースを勝ち抜いていく為には、来倉した選手たちがもてなされていると感じてくれること、また、選手たちのプレーを理解し一緒になって興奮を味わえる観客が多い会場で“競技できる喜び”を提供する事が絶対に必要である。選手たちに倉吉での大会に行ってみたいと思わせられることが、運営側からも倉吉での大会開催を推進する大きな理由となるはずである。



倉吉商工会議所青年部で飲食ブースを設置し、競技者をおもてなし

◆目標・GOAL

【倉吉市=スポーツクライミング】という認識が広がり、
市民が胸を張って【聖地である】と言えること

野球で言えば甲子園、ラグビーで言えば花園、サッカーで言えば国立というように、スポーツで聖地と呼ばれる地域には必ず競技施設があり、また継続して全国大会が開催されているものである。これらの競技も最初から聖地であったわけではなく、運営サイドはもちろんのこと、その地域住民と自治体とが強力なスクラムを組んで競技のブランド化を推し進めた結果、聖地と呼ばれることとなったはずである。ビジネスにおいてもブルーオーシャンを見つけ、そこで自社だからこそできるサービスの提供し、先行者利益から圧倒的な地位を確立する事が勝ち抜く秘訣である。倉吉には今その原石がある。これを如何に磨き、圧倒的に価値あるものにするか、今動かなければ他の自治体に先行されることとなる。スポーツクライミング聖地化協議会を他地域に先駆けて設置したならば、全力で聖地化を進めていくことが肝要であるのではないだろうか。



◆青年部のこれまでの取り組み

倉吉をクライミング聖地に 商議所青年部が講演会

倉吉商工会議所青年部(畑昭宏会長)は7月27日、「スポーツクライミング」に注目し、県中部在住でJOC日本代表コーチの安井博志氏を招き、倉吉市内で講演会を開いた。安井氏は「倉吉をクライミングの聖地に～スポーツで倉吉の未来を切り拓く」と題して講演。現在の情勢を報告し、クライミングを通じた今後のまちづくりの可能性を力説した。

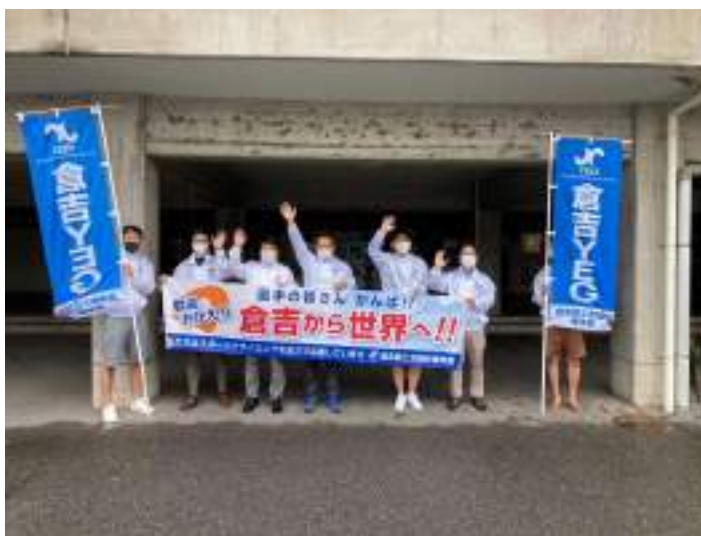
安井氏はクライミングの8種目が実施できる国内唯一の施設が本年度中に倉吉に整備されることや、国際的に活躍する選手や指導者が県中部に存在するなど他にない環境があることで、来年のアジア大会が誘致できたと紹介。

安井氏は「(クライミングの)環境は倉吉にそろっている。さらなる盛り上げには民間の力が必要。興味を持ってもらい応援してほしい」と協力を呼び掛けた。会員ら約50人が出席し、熱心に聞き入った。

同青年部ではおもてなしで協力する意向で、すでに5月に倉吉で開かれた日本ユース選手権で飲食ブースを出店して協力。収益金を県内のクライミング選手の育成に役立ててもらおうと寄付した。

同青年部倉吉ヒカリへ委員会の平真委員長(38)は「1人でも多くの人にクライミングを知ってもらい、みなで協力して盛り上げたい」と話した。

「倉吉をクライミングの聖地に」と講演する安井日本代表コーチ

写真右：野口啓代選手（東京オリンピック銅メダリスト）との懇親会



写真：野中生萌選手（東京オリンピック銀メダリスト）、伊藤ふたば選手



ユース大会ボランティア



会場飲食ブース設置



コロナ前の2017年～2019年の大会では来倉された選手たちに喜んでもらえるようボランティア活動を行った

倉吉商工会議所青年部からのスイカ差し入れ

倉吉商工会議所青年部からスポーツライミングフランス代表チームへスイカの差し入れがありました。

選手に直接手渡すことができないため、長谷川会長から市地域づくり支援課笠見課長が代理で受け取り、市から選手団に渡しました。

選手団からありがたいメッセージを受けました。



◆商工会議所青年部の今後の関わり方について

倉吉商工会議所青年部は2026年に40周年となる。我々は、会員個々の人間力を高め、カラフルな未来を創造する団体を目指して日々活動を行っている。

地域屈指の青年経済団体としての責任を自覚し、今年度**全市民「倉(クラ)イマー」計画**を作成した。

倉吉市をスポーツクライミングの聖地にするために以下のことを推進していきたい。

- 大会運営に際し、スタッフが不足していれば動員する（2022.12時点：会員数59名）
- 大会に飲食ブースが必要であれば、各所と連携し、最大のおもてなしを実行する
- 競技をサポートできる大人の絶対数を増やすことで指導者が増えていく未来に繋げるため、地域の子どものクライミング指導者（サポーター）への講習会への参加
- 出張クライミングウォールなどイベントの際には、地域の未来のために活動を行う
- スポーツクライミングに関わる仲間との交流を通じ、自企業の発展を図るとともに、地域経済の底上げを担う



一緒に聖地化に向けて取り組んでいきましょう

あとがき

令和 4 年度、倉吉商工会議所青年部は実に十数年ぶりとなる政策提言を作成することとなりました。テーマを絞る過程では、青年部内でのディスカッションや市役所職員の方々をお招きしての意見交換会を行い、多くの取り組むべきテーマが上がってきました。その中でも、今回この「スポーツクライミング」というテーマで提言を作成したのは、単年度事業が基本である青年部にあって、年度をまたいで継続的に協力してきた事柄であることはもちろんのこと、令和 3 年度に作成した倉吉商工会議所青年部 VISION2026 において「次代を担う子どもたちに誇れる未来を創造します」という一節が大きな要因となりました。地方の住む子供たちは自然環境には多く触れ合う機会があるものの、学業やスポーツでの選択肢の多さという点では都市部に適いません。それでも、行政が整えてくださった全国的にも水準の高い施設がいくつか存在します。スポーツクライミング施設はその最たるもので、これを活かすことで子どもたちの未来の選択肢を広げる事ができるのではないかと考えたためです。

テーマ選定後、多くの情報に触れ、他自治体施設への視察や安井氏との懇談を経て感じたことは、施設があっても、競技する選手たちが「倉吉に行きたい」・「倉吉の大会は気持ちがいい」と思ってくれなければ、大会誘致継続も果たせず、“倉吉＝クライミングの聖地” とはなりえないという現実でした。このままでいいのだろうか？メンバー内で協議を繰り返していく中で今回の提言書をまとめるに至りました。

“倉吉＝クライミングの聖地” になるためには、市民の皆様の多くが競技を知り、携わり、みんなで応援する環境になることが大切であると思います。そこを産官で連携して支えていく。この提言書がそのきっかけになることを願いつつ、倉吉商工会議所青年部は今後も聖地化実現に向けて取り組んでまいります。



倉吉商工会議所青年部 令和 4 年度副会長 廣戸 智行

ビジョン

私たちは倉吉商工会議所青年部活動を通じて
会員個々の人間力を高め、カラフルな未来を創造する団体をめざします

スローガン

地域へ虹をかける

ミッション

ミッション1 私たちは地域の未来のために活動を行います

次代を担う子どもたちに誇れる未来を創造します
地元を愛する各種機関と連携し、魅力ある街づくりに取り組みます
地域経済の発展を願うものとして提言活動を行います

ミッション2 私たちは地域屈指の青年経済団体に成長します

仲間との交流を通じ、自企業の発展を図り、地域経済の底上げを担います
いまを生きる責任世代として、会員一人ひとりの人間力の向上に努めます
魅力ある組織であることを内外へ発信していくことで、
青年部活動に共感する熱意ある仲間を毎年7人増やします

ミッション3 私たちは倉吉商工会議所青年部ブランドを確立します

倉吉商工会議所青年部は全力で地域のイベントに協力します
倉吉商工会議所青年部は文化的創造を模索し続けます
倉吉商工会議所青年部は創意と工夫、勇気と情熱をもって
豊かで住みよい郷土づくりに貢献いたします

2021年12月、倉吉商工会議所青年部は『倉吉商工会議所青年部 VISION 2026』として、長期ビジョンを策定しました。これは「ビジョン」を実現するために私たちが2026年にどうありたいかをまとめたものです。

2021年5月に新型コロナウイルスの影響を受け完全オンラインで開催した「第38回 中国ブロック大会 倉吉大会」の思いを忘れることなく、2026年に迎える倉吉商工会議所青年部40周年に向けて『倉吉商工会議所青年部 VISION 2026』で掲げた3つのミッションに注力した取り組みを進めていきます。